

高気密木製建具

<概要> 従来型式の外側はアルミサッシ、内側が木製建具の窓では、内側の木製建具の気密性が低いために、室内の暖められた空気が木製建具の周囲から逃げてアルミサッシ面に触れ、そこで冷却されて結露することがよくある。ここで紹介する高気密木製建具は従来の窓形式での、この結露問題を改善することを目的としと考案したものである。

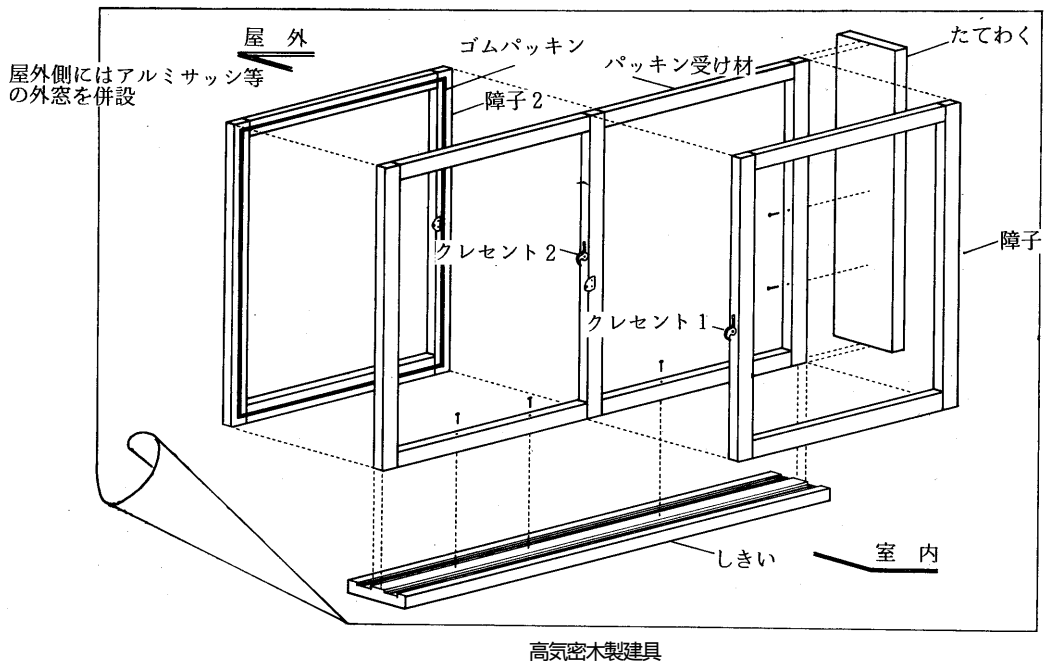
また、木製サッシの比較的弱い点として、塗膜の耐候性・耐久性が上げられているが、このように外側をアルミサッシとして、そこに耐久性・耐候性の機能を求め、内側の木製建具に断熱性・防露性・気密性等の機能を担わせ、機能分担をはかる方法も木製建具にとっては一つの良い方法と思われる。

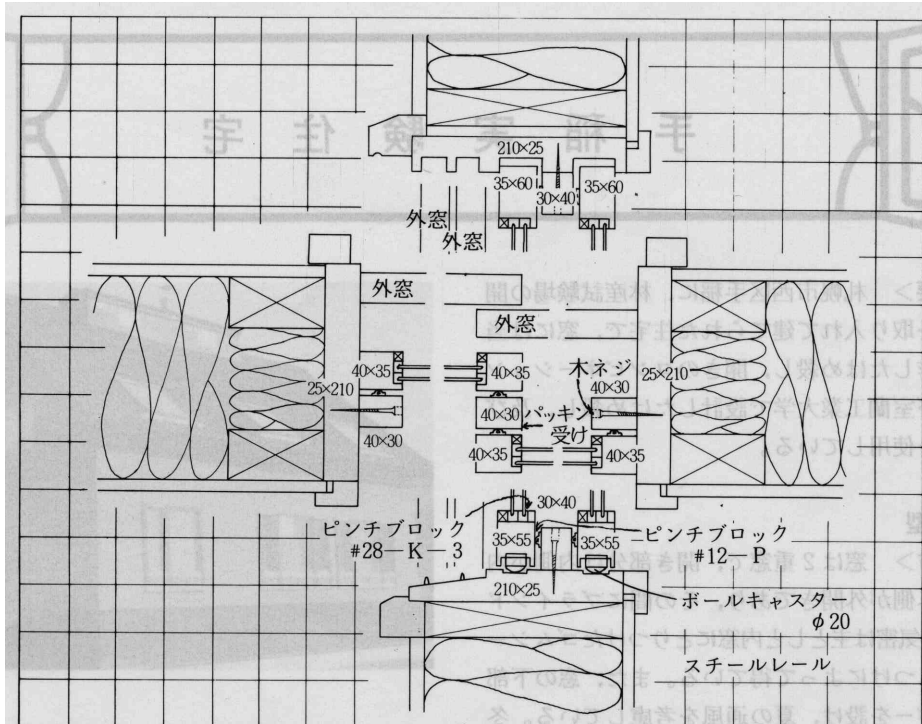
<特徴>

引き違い窓は気密性が劣ると言われている。しかしこの窓では、パッキンを四周に張った障子をクレセントの引きつけ力を利用して、パッキン受け材に密着させるために、高い気密性が得られるようになっている。2枚の障子の間にパッキン受け材という新しい部材を設けている点が一つの大きな特徴となっている。

障子がパッキン受け材に十分ひきつけられるためには、障子が開閉方向ばかりではなく、それと垂直な方向にも容易に移動しなければならない。そのために、この窓では2方向の移動もできるように、通常の戸車ではなく、ボールキャスターを利用している。

このようにパッキン受け材という新しい部



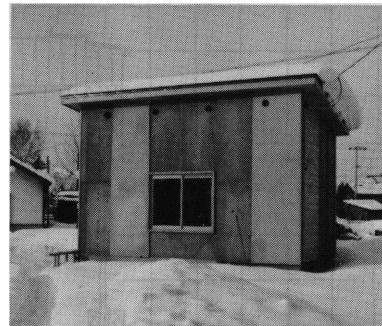


高気密木製建具



材を利用する考え方は、既存の木製建具の気密化改修にも十分利用できるものと思われる。

ガラスは単板ガラスの2枚構成としているが、単に押さえ縁等で固定するだけでなく、ガラスの周囲にもゴムパッキンをまわし、ガラス押



さえ部分での気密性を上げるようにしている。しかし、このようなパッキンの使い方は、施工が簡単になる、確実に気密性が上がる等メリットは大きいですが、二重にパッキンを用いているため、一窓当たりのパッキン使用量が多くなり、経済的ではなく、改良の余地があると思われる。

<コスト>

55,000円(アルミサッシ込み, 推定価格)
(材質科 飯田)